

『2010年(1月～12月)JVA統計調査』について

当協会は3月8日(火)午前11時より、協会会議室において『2010年(1月～12月)JVA統計調査結果』について記者発表会を開催しました。当日の出席者は、藤浦昭統計調査委員会委員長(株)ポニーキャニオン)、後藤健郎理事・事務局長、肥田幹夫管理部長、上田直子管理部次長兼広報課長。

以下に記者発表された報告の中から抜粋して2010年の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、同調査の詳細な結果は『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.71』として冊子にまとめられ、一般の方にも有料にて頒布しております。

詳細については、広報課上田まで(03-3542-4433)、もしくは協会ホームページ「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以上

2010年(1月～12月)の実績について

本年調査からの変更点・・・2010年調査から、ビデオカセットを調査の対象外とした。そのため、ビデオソフト全体の売上の前年比を算出するには、2009年の実績からビデオカセットの実績を除いた数値を用いて比較している。

1. 2010年のビデオソフトの総売上は2,665億4,800万円で前年比97.3%となった。

下半期実績では前年同期比100.6%と前年同期並であったが、上半期の前年同期割れ(前年同期比93.6%)が影響した。年間実績では2004年の3,753億9,300万円をピークに6年連続で前年割れが続いているが、08年実績の前年比が88.9%、09年が95.8%、本年が97.3%であり、徐々に減少率は穏やかなものとなってきている。

一方、数量においては8,994万6,136枚で前年比102.4%となり、2年連続で前年を上回った。ブルーレイの出荷数量の増加(前年比236.6%)が大いに貢献した。

2. ビデオソフトの総売上金額をメディア別に見てみると、DVDビデオが2,192億9,000

万円の前年比 88.0%(構成比 82.3%)と前年を割り込む一方で、ブルーレイが 471 億 9,100 万円の前年比 195.7%と大きく伸長、構成比も 17.7%を占めるなど存在感が増してきており、2010 年はブルーレイの立ち上がりの年となったと言えよう。UMD は 6,700 万円の前年比 15.4%(構成比 0.0%)となり急激に市場が縮小している。

- 3 .ビデオソフト全体の売上金額を流通チャネル別に見てみると、「販売用」が 1,850 億 8,700 万円の前年比 103.4%となり、5 年ぶりに前年を上回ることとなった。「販売用」の全体金額における DVD ビデオとブルーレイと UMD の割合は 75.8 : 24.2 : 0.0 となり、ブルーレイの割合が 4 分の 1 を占めるまでとなった。「販売用」DVD の売上金額の前年比が 89.9%であったのに対し、「販売用」ブルーレイは同 197.6%と伸長し、ブルーレイの伸長が「販売用」全体の売上金額の増に大きく貢献した。

一方、「レンタル店用」は、804 億 0,300 万円の前年比 85.5%と大きく落ち込むこととなった。上半期の実績の低下(前年同期比 79.2%)が大きく響いた。DVD ビデオとブルーレイの割合は 97.1 : 2.9 で、ブルーレイの売上はごくわずかである。

ビデオソフト全体に占める「販売用」「レンタル店用」「業務用」のチャネル別の売上金額の割合は、69.4 : 30.2 : 0.4 となった。

- 4 . DVD ビデオの売上金額は 2,192 億 9,000 万円の前年比 88.0%、2005 年の 3,477 億 0,700 万円をピークに 5 年連続で前年を下回ることとなった。DVD ビデオの売上金額における「販売用」「レンタル店用」「業務用」の割合は、64.0 : 35.6 : 0.5 となった。

- 5 . DVD ビデオの「販売用」の売上金額は 1,402 億 4,000 万円、前年比 89.9%となった。売上金額をジャンル別に見てみると、『音楽(邦楽)』が 25.3%を占め、はじめて『日本のアニメーション(一般向け)』を抜いて構成比 1 位となり、前年比も 102.9%と伸長した。構成比 2 位は『日本のアニメーション(一般向け)』で 21.3%を占めたが前年比は 77.1%と落ち込んだ。同ジャンルについては、ブルーレイへの移行が進んでいることによる減少と見られる。3 位の『洋画』(構成比 12.5%)は前年比 99.3%と僅かに前年割れとなったが、数量では同 116.2%と 1 割以上の上昇となった。4 位には『日本の TV ドラマ』で(同 8.5%)前年並みの 100.3%となったが、『邦画』は前年比 80.5%と落ち込み、構成比を 5 位(同 7.5%)に落とした。

- 6 . DVD ビデオの「レンタル店用」売上金額は 780 億 5,200 万円の前年比 84.3%と大きく落ち込んだ。

DVD ビデオの「レンタル店用」の売上金額をジャンル別に見てみると、売上構成比の 1 位は『洋画』で 23.7%を占めるが前年比は 87.2%、2 位の『日本のアニメーション(一般向け)』(構成比 18.0%)も前年比 86.7%、前年好調だった 3 位(同 14.9%)の『海

外のTVドラマ』は前年比70.1%と3割の減少、構成比4位(同12.7%)の『邦画』も前年比74.1%となり、主だったジャンルのほとんどが大きく前年を割り込んだ。

数量における構成比では、『洋画』(構成比25.6%)前年比97.3%、『海外のTVドラマ』(同21.8%)前年比98.5%、『アジアのTVドラマ』(同17.9%)前年比80.1%、『日本のアニメーション(一般向け)』(同9.9%)前年比91.3%の順となり、レベニューシェアリング方式の導入が高いと思われる『アジアのTVドラマ』が3位に入るなど、金額の構成比と異なった結果となった。『アジアのTVドラマ』以外の主だったジャンルでは、金額に比較して数量の前年割れは穏やかなものとなっており、単価が低下していることが窺える。

7. ブルーレイの売上金額は471億9,100万円で前年比195.7%と大きく伸長、売上全体の構成比も17.7%に上昇した。

ブルーレイの売上金額のうち94.9%を「販売用」が占め、447億8,000万円(前年比197.6%)となった。「販売用」の売上金額をジャンル別に見てみると、半分以上の56.9%を『日本のアニメーション(一般向け)』が、24.5%を『洋画』が占めた。構成比3位は『邦画』だが、構成比は6.0%と非常に小さく、相変わらず、『日本のアニメーション(一般向け)』と『洋画』が2大ジャンルとなっている。数量においては構成比が逆転し、『洋画』が42.3%を占め、『日本のアニメーション(一般向け)』が39.5%となる。

一方、「レンタル店用」は23億5,100万円でブルーレイ売上全体の5.0%にとどまっております。売上金額のジャンル別を見ても『洋画』が88.8%を占めるなど偏りが見られ、いまだ市場の確立には至っていない。

8. ビデオソフト全体の「販売用」チャンネルの売上金額は前述のとおり、ブルーレイの売上増が大きく影響し、前年を上回ることとなったが、これをジャンル別に見てみると、構成比1位は29.9%を占める『日本のアニメーション(一般向け)』で前年比は108.7%、2位は『音楽(邦楽)』で構成比20.0%、前年比104.9%、3位は『洋画』で構成比15.4%、前年比115.1%といずれのジャンルも前年を上回った。構成比4位の『邦画』(構成比7.2%)だけ前年比92.9%と前年割れとなったが、5位の『日本のTVドラマ』(同6.7%)も同103.0%、6位の『芸能・趣味・教養』(同5.7%)も同114.5%となるなど、主だったジャンルで前年を上回ることとなった。

ジャンル毎にブルーレイの売上金額の割合を見てみると、『日本のアニメーション(一般向け)』は46.0%を占めブルーレイの構成比が半分に近くなっているが、『音楽(邦楽)』ではDVDビデオのシェアが圧倒的に高く、ブルーレイは4.1%を占めるに過ぎない。『洋画』については38.9%、『邦画』では20.3%をブルーレイが占めている。

以 上